

学校評価アンケート結果報告

平成 28 年 1 月
大阪高等学校

本校では、よりよい学校づくりを目指して改革を続けております。さらなる教育の環境整備と質的向上、教育成果の向上のために様々な取り組みを重ねて参りました。その成果を確認するとともに、更なる改善に向けた課題形成を図る機会として本年度も学校評価アンケートを実施しました。集計結果に分析を加えて、学校改革・教育改善の進捗をお伝えすべく本書面をまとめました。ご高覧のうえ、ご意見等を頂戴できれば幸甚です。

学校長 岩本信久

凡例と集計方法について

凡例: ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。グラフ中の数値は小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。今後も情報発信の充実を図り、教育意図の説明をはっきり行うことで、皆様からご明確なご判断を仰げるように努めてまいります。

9割超が、本校に入学させて良かった



「大阪高校に入学させて良かったか」という質問に対して、一昨年までは 80% 台半ばに止まっていた肯定的な回答が、昨年度から連続して 9 割を超えることができました。生徒一人ひとりが高校生活を通じて好ましい資質を獲得していけるよう、これからも教職員一丸となった取り組みを進めて参ります。ご家庭との連携を密に、お預かりした大切な生徒一人ひとりの成長に責任を果たすことで「大高を選んでよかった」との声に添えていく所存です。

さらなる充実を求められる領域

「学校にさらなる充実を求めたいものは何ですか」という問いには、学習指導や学力向上を選んだ保護者が 72% に上りました。昨年度の 70% をさらに超える水準です。2 番目は「進路指導や就職支援」の 67% であり、3 位以下を大きく引き離しています。学校の教育リソースの配分に際し、これら 2 点には集中的な投資を行う必要があることを改めて確認しています。変化のスピードが大きく上がり、不確実性がますます高まる時代です。卒業を迎えて最適な進路を決

定するだけでなく、進路選択のプロセスを通じて、生徒一人ひとりが「選択の力」を身につけていけるような指導、未来を拓く力を養う教育をますます充実させていくことをお約束いたします。なお、3 番目以下は、課外活動や学校行事の充実 (15%)、設備拡充や安全・衛生 (14%)、情報発信や学校公開 (10%) となっています。

また、子どもに獲得させたい資質は何かとお尋ねし 2 つを選んでいただいたところ、選択率が 3 割を超えたのは以下の 4 つでした。上位 3 つは選択率が昨年を上回りました。獲得して欲しいとの切なる思いとそれに添えてくれるだろうとの期待とが、項目選択に現れたものと受け止めています。寄せられたご期待に添うべく取り組みを進めます。

将来を切り開いていく力	49% (←47%)
自主自立の姿勢	39% (←37%)
学力・知力	36% (←36%)
協調性・社会性	31% (←32%)

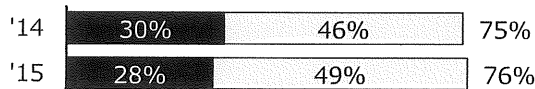
※カッコ内の数字は昨年度の結果

大高は、あったかい学校であり続けます

「本校の特徴としてどれが当てはまると思われるか」とお尋ねしたところ、昨年度までと変わらず、「生徒がいきいきと学習や部活に励んでいる学校」と「ひとりひとりを大切にしてくれる学校」の 2 つがそれぞれ 42%、36% と最上位に並んでいます。本校が最も大切にしてきたアイデンティティの一つである“あったかい学校”と符合する結果です。高校生活は将来を拓くための準備期間であるとともに、生徒が輝ける 3 年間でなければなりません。一日一日が成長と自己実現の場であるよう、生徒一人ひとりを大切に教育を今後も実践してまいります。

高まる期待のさらに一歩先を行く、 学習指導と進路指導の実現に向けて

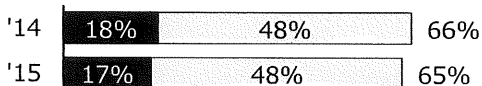
Q お子様は、学校生活の様々な場面で目標をもってひたむきに頑張っていると思いますか。



昨年度とほぼ同じ数値ですが、学校としてはまだ改善の余地ありと考えております。3年生に限れば80%をゆうに超える肯定的な回答を頂戴しましたが、1年生、2年生にも「その時にしかできないこと」があるはず。日々の学習、部活動、ひとつひとつの学校行事を通じて、より明確な目的意識をもって取り組めるよう、強い達成感を得られるよう、教育機会の整備を進めて参ります。

進んで学校に通う意欲・目的の源泉は何かをお尋ねして2つを答えていただく質問では、クラスでの友人とのふれあい(52%)やクラブ活動(39%)に続き、進路目標の実現も上位に並びました。また、各教科の学習が意欲の原資であるとの回答は昨年度より3ポイント増えています。生徒自身の回答では、「学習と進路」を意欲の源泉との答えが「交友との交流」を上回るクラスも現れており、保護者や生徒の意識には大きな変化が起きていることが窺えます。

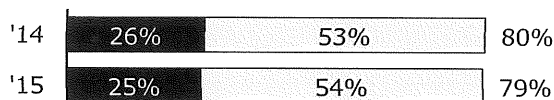
Q 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われませんか。



残念ながら、昨年度を上回ることができず、更なる改善を加速させる必要を感じます。学年が上がるごとに評価も高まりますが、学びの成果が各学年での積み上げである以上、早い段階から学ぶ理由を見つけさせた上で、それを支え成果につなぐ態勢を整えていきたいと思っております。日々の授業の中に、達成感と新たな興味を見出し、それを社会の営みと結び付けて考える機会を整えていくことが肝要と考えます。次年度を待たず、具体的な検討・指導計画の立案を進めております。ご家庭にもご協力を仰ぐ機会があるかと存じますので宜しくお願いいたします。

高大接続改革など、高校教育を取り巻く環境が大きく変化していく中、本校においても協働的な学習、生徒が主体的に参加する学びへの転換にむけて教職員も積極的に研修に取り組んでいます。

Q 進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分に役立っていると思われませんか。



学習指導と同様の結果です。肯定的な回答が占める割合だけなら8割前後とあまり変わりませんが、「どちらかと言えば」という但し書きが取れた答えはまだ少なく、更なる改善を進めます。

進路希望の実現が、高校に課せられた大きな責任の一つであるの言うまでもありませんが、社会全体での標準的な成功モデルが存在しなくなった今、キャリアは選ぶものではなく重ねるものになってきました。進路指導を通じて、資質や志向に合致した進路を見つけ出すとともに、岐路に臨んで最適な選択を行える視点と思考を養うことにもこれまで以上の力点をおいた指導を展開していきます。

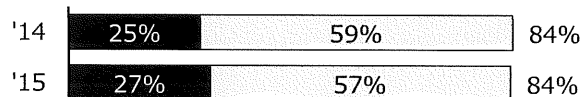
本校では、時代の変化を見据え、新たな教育目標「未来へ、世界へひらく自己の確立」に向け、日々の教育活動の改善に取り組んで参りました。今後の取り組みや進展の様子は、保護者会や学校HPでも積極的に情報を発信いたします。

生徒一人ひとりが輝ける毎日のために

Q 生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思われませんか。



Q 学校行事が充実しており、行事についての様々な工夫や学校の姿勢が強く感じられますか。



部活動と学校行事は、生徒が充実した学校生活を

送るために欠かせないだけでなく、好ましい資質を獲得するための教育機会です。部活動は「教室では経験できない異年齢の交流の場」、学校行事は「クラス全体での協働によって目標達成に取り組む場」という位置づけです。部活動については昨年度を4ポイント上回る評価をいただき、学校行事では肯定率は同水準にとどまったものの「但し書き」のとれた肯定が2ポイント増えました。物理的な環境の制約や他の教育活動とのバランスを取る必要もありますが、日常の中で生徒一人ひとりが輝ける場として、より良い活動が行えるよう環境整備に当たります。

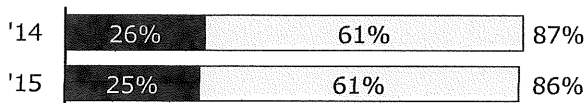
安全への取り組み、誠実な対応

生徒の安全を守ることは教育活動以前の学校の責任と考えております。継続して高い評価を頂戴しておりますが、今後も取り組みを進めます。誠実対応についても不備はなかったか再確認しております。

Q 登校・下校時指導や緊急時メール連絡網など、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分ですか。



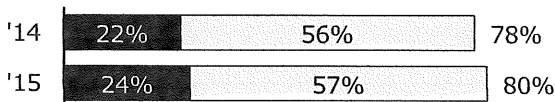
Q 学校は、保護者や地域からの要望・意見に対して誠実に対応していると思いますか。



情報発信と育友会活動

昨年度に引き続き、広報活動の一層の充実に努めてきた結果、僅かながら肯定的な回答を増やすことができました。しかしながら、改善の余地はまだ大きく残されているようです。

Q 学校からの連絡文書や懇談会・授業公開などを通じて学校の様子は十分に知ることができますか。



保護者会やクラス懇談会で取り上げて欲しいこと

として「進路や入試に関する情報」を保護者の7割が挙げて、2位以下(子供への接し方や行動観察の方法:21%、模擬試験などの成績状況:18%)を大きく引き離しています。入試動向、受験情報などの外的環境の変化に加え、進路指導の現況と意図するところとをしっかりと伝えていく所存です。学校がやろうとしていることをしっかり示すことで、保護者の皆様と学校とがスクラムを組んで子どもたちを支えていけるものと考えております。

「進路希望や将来の職業、あるいは学校での様子などについて、家庭で話をすることはありますか」という問いに対し、「話をする機会がよくあり、保護者も関心をもって会話に臨んでいる」との回答は46%で昨年度と同じです。続いて多いのは、「話をする機会はあるが、あまり突っ込んだ話にはならない」の31%「子どもが自分から話をする機会は少ないが、保護者としては関心がある」の23%でした。この2つを足し合わせると半数以上を占めることから、ご家庭で対話の更なる充実を保護者の方は望んでおられると判断いたします。入学から卒業まで一貫して行っている進路指導・キャリア教育について保護者の皆様にもより良く知ってもらうことに加え、時期に応じた適切な情報を発信することで、ご家庭での対話をより密なものにできればと考えております。

育友会活動

育友会の活動には、「関心がある」とされた保護者は昨年度より1ポイント増えましたが、44%と半数未満にとどまっています。また、「活動の内容を知っている」のは33%です。学校として、育友会へのご協力を仰ぐべく、活動内容の周知に力を注いできたつもりでございましたが、まだ十分とは言えないことを改めて認識したところです。保護者向けの広報の在り方を含め、教職員側がどのように育友会に関わっていくべきか、改めて協議を進めて参ります。

好ましい資質・姿勢の獲得に向けて

この学校評価では、「生活習慣」「行動選択」「共存資質」「自律学習」という4つの観点で、保護者の目を通した生徒の成長をお尋ねしています。

いずれの項目でも、学年が上がるにつれて肯定的な回答が占める割合が増えており、大高生は日々の生活の中で着実に成長を遂げているようです。

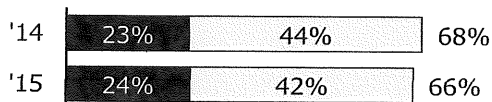
生活習慣と共存資質の2つは1年生のうちから高い水準にありますが、行動選択と自律学習では上昇の急カーブを描く時期がやや遅いように思われます。ゴールだけを見つめて日々の生活での輝きを忘れてはいけません、立ち止まっている時間があれば卒業までに身につけられるものが小さくなります。このあたりのバランスをしっかりと考えながら、教育活動の最適化を進めます。

Q 保護者の目から見てお子様は、高校生にふさわしい規律ある生活を送れるようになりましたか。



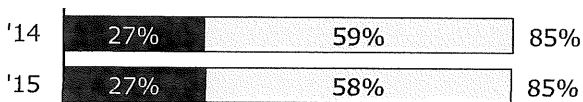
昨年度に比べて3ポイントほど肯定率が高まりましたが、「どちらかと言えば」という但し書きが付く消極的な肯定が増えており、いまだ十分な成果をあげているとは言えません。管理を強めるだけでなく生徒自身が自分の生活を客観的に振り返り、自らを律することができることを旨とした指導を展開していきたいと考えております。

Q 保護者の目から見てお子様は、自分の将来と結びつけて今なすべきことを考えられるようになりましたか。



昨年度を下回っており、学校としても反省の必要を感じております。2年生、3年生では昨年度を超える評価をいただきましたが、1年生で指導効果の発現が遅れているようです。この遅れは次年度に持ち越さず、早期に解消を図るべく、学年団と各分掌が協力して対策を講じているところです。

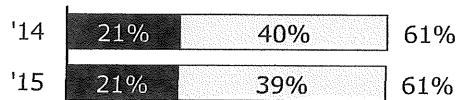
Q 保護者の目から見てお子様は、立場の異なる相手の意見にもちゃんと耳をかたむけるようになりましたか。



立場の異なる相手の意見に耳を傾け、発想や視野

を広げたり、コミュニティとしての協働の接点を探ったりする力は、これからの社会を生き抜くために欠かせないものです。日々の学習、課外活動などを通じ、協働性、多様性、主体性をこれまで以上に育ていけるよう機会の整備と拡充を図ってまいります。

Q お子様は、自分なりの目標や課題をもって日々の学習に取り組めるようになりましたか。



進路希望が具体的になり、その実現に向けた努力が本格化する3年生はしっかりした取り組みを見せてきていますが、その時期を迎えるまでの段階では一層の改善を図る必要があります。

日々の学習の中に達成感が得られるような課題を設けたり、タスクマネジメントのトレーニング機会を設けたりすることを軸に改善を進めているところです。大高では、自学の姿勢を大切にしています。オリエンテーション学習合宿から始まる一連の指導を整備してきましたが、それらの効果を高め、長期に持続させることにこれまで以上の力を注ぐ所存です。

同様の質問に対し、生徒にも回答してもらっています。日々の授業や家庭学習への自らの取り組みについては3年生を除くと半数近くの生徒が自らの行動を肯定的に評価できていません。「部活動の活発さ」や「規律ある生活・マナーを守った集団生活」、「学校行事を通じた達成感」でそれぞれ、79%、77%、75%が肯定的な回答をしていること照らすと、明らかに低位と言えます。教員側での指導技術の一層の向上に加え、日々の学習への動機づけや、生徒相互の刺激を利用した自覚を促す仕掛けも含め、多面的に生徒の学びを支えていきたいと思っております。

大阪高校は今後も改革を続け、地域の期待に応える学校、在校生・卒業生が今以上に誇りに思える学校を目指します。今後ともご支援とご協力をお願いします。

本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL:06-6340-3031 FAX:06-6349-3719

保護者による学校評価アンケート担当：副校長 岡本進